

平成22年第2回定例会
予算決算常任委員会県土整備企業分科会
提出資料

○ 議案補充説明

- I 平成22年度12月補正予算について..... 1
- ・議案第26号「平成22年度三重県水道事業会計補正予算（第1号）」
 - ・議案第27号「平成22年度三重県工業用水道事業会計補正予算（第1号）」
 - ・議案第28号「平成22年度三重県電気事業会計補正予算（第1号）」

○ 所管事項

- I 平成23年度当初予算要求状況について..... 7
- II 平成22年度中間決算報告について..... 9
- III 北中勢水道（北勢長良川水系）の水道料金見直し
について..... 16

平成22年12月10日

企業庁

I 平成22年度12月補正予算について

1 水道事業【議案第26号関係】

(単位：千円)

		既決予算	12月補正	計	補正項目	
収益的収支	収入	10,604,027	△ 26,558	10,577,469	その他営業収益	△ 161
					他会計補助金	△ 28,531
	支出	14,912,362	149,793	15,062,155	補助金	△ 3,694
					雑収益	1,110
					受託工事収益	4,718
					原水及び浄水費	△ 48,817
					配水費	8,595
					業務費	△ 9,260
					総係費	△ 26,996
					資産減耗費	△ 29,227
支払利息及び企業債取扱諸費	△ 32,394					
消費税及び地方消費税	27,214					
受託工事費	4,718					
その他特別損失	255,960					
収益的収支差	△ 4,308,335	△ 176,351	△ 4,484,686	収益的収支差は税込み		
純利益	△ 4,432,056	△ 152,035	△ 4,584,091	純利益は税抜き		
資本的収支	収入	3,001,398	△ 181,722	2,819,676	企業債	△ 103,800
					国庫補助金	△ 27,495
					他会計出資金	△ 55,260
					固定資産売却代金	1,250
					工事受託金	3,583
	支出	8,677,490	△ 904,028	7,773,462	業務設備及び改良費	△ 5,081
					北勢水道改良費	△ 157,075
					中勢水道改良費	△ 21,126
					南勢水道改良費	△ 364,192
					北勢広域水道拡張費	△ 160,100
長良川河口堰水源費	△ 6,911					
企業債償還金	△ 196,781					
国庫補助金返還金	7,238					
資本的収支差	△ 5,676,092	722,306	△ 4,953,786	資本的収支差は税込み		

○債務負担行為の補正 変更

単位：千円

事 項	変更前		変更後	
	期 間	限 度 額	期 間	限 度 額
行政事務用機器賃借に係る契約	H23～H27	2,722	H22～H27	13,975

追加（新規）

単位：千円

事 項	期 間	限 度 額
播磨浄水場ろ過砂更正工事に係る契約	H22～H23	49,350
菰野導水ポンプ所3号ポンプ分解点検工事に係る契約	H22～H23	25,358
四日市谷町分水無停電電源装置取替工事に係る契約	H22～H23	2,105
播磨浄水場高圧交流負荷開閉器取替工事に係る契約	H22～H23	2,192
長島分水減圧弁及び安全弁改良工事に係る契約	H22～H23	13,125
茂福減圧弁改良工事測量設計業務委託に係る契約	H22～H23	4,967
一般健康診断等委託に係る契約	H22～H23	2,013
財務会計システムに係る契約	H22～H27	3,799
施設設備保全業務委託等に係る契約	H22～H25	3,273

【収益的収支】

(収入)

収入についての補正は、26,558千円の減額となり、その主な内容は以下のとおりです。

○他会計補助金 $\Delta 28,531$ 千円

平成21年度に実施した公的資金補償金免除繰上償還に係る支払利息の減少による費用の減に伴う一般会計からの補助金の減

○受託工事収益 4,718千円

明和町等からの受託工事の増

(支出)

支出についての補正は、149,793千円の増額となり、その主な内容は以下のとおりです。

○原水及び浄水費 $\Delta 48,817$ 千円

水資源機構等が所管するダム等の水源施設に係る管理費負担金の減や人件費の減

○その他特別損失 255,960千円

平成21年度伊賀水道事業の決算により企業庁内部に留保された資金を財源として、伊賀市へ承継する企業債の一部を繰上償還したことに伴う増

(純損失)

純損失については、収益的収入及び支出の補正により、当初の4,432,056千円から152,035千円の増となり、4,584,091千円となる見込みであります。

【資本的収支】

(収入)

収入についての補正は、181,722千円の減額となり、その主な内容は、以下のとおりです。

○企業債 $\Delta 103,800$ 千円

北勢広域水道拡張費の減少に伴い、その財源としての減

○他会計出資金 $\Delta 55,260$ 千円

北勢広域水道拡張費の減少及び平成21年度に実施した水資源機構割賦負担金繰上償還に係る支払利息の減少などに伴い、その財源としての減

(支出)

支出についての補正は、904,028千円の減額となり、その主な内容は以下のとおりです。

○南勢水道改良費 $\Delta 364,192$ 千円

入札差金等による減

○企業債償還金 $\Delta 196,781$ 千円

平成21年度に予定していた借換債の発行を取り止め、自己資金により公的資金補償金免除繰上償還を実施したことによる償還元金の減

2 工業用水道事業【議案第27号関係】

(単位：千円)

		既決予算	12月補正	計	補正項目	
収益的 収支	収入	6,401,713	23,941	6,425,654	その他営業収益	△ 133
					他会計補助金	654
					受託工事収益	5,041
					雑収益	533
					固定資産売却益	17,846
	支出	5,900,864	△ 316,961	5,583,903	原水及び浄水費	△ 259,220
					配水費	△ 2,292
					業務費	24,999
					総係費	1,933
					資産減耗費	△ 29,348
支払利息及び企業債取扱諸費					△ 8,295	
消費税及び地方消費税					△ 2,802	
受託工事費					5,041	
その他特別損失	△ 46,977					
収益的収支差	500,849	340,902	841,751	収益的収支差は税込み		
純利益	356,020	322,316	678,336	純利益は税抜き		
資本的 収支	収入	2,858,647	△ 154,367	2,704,280	国庫補助金	△ 85,300
					他会計出資金	△ 54,966
					工事負担金	△ 31,500
					固定資産売却代金	1,197
					工事受託金	16,202
	支出	7,070,254	△ 766,301	6,303,953	業務設備及び改良費	△ 32,961
					北伊勢工業用水道改良費	△ 248,408
					北伊勢工業用水道第二次改良費	△ 362,081
					長良川河口堰水源費	△ 54,966
					水資源機構立替金返還金	△ 70,759
国庫補助金返還金					2,874	
資本的収支差	△ 4,211,607	611,934	△ 3,599,673	資本的収支差は税込み		

○債務負担行為の補正

変更

単位：千円

事 項	変更前		変更後	
	期 間	限 度 額	期 間	限 度 額
第二期取水施設迂回路撤去その他工事に係る契約	H23	198,098	H22~H24	285,248
行政事務用機器賃借に係る契約	H23~H27	735	H22~H27	2,890

追加（新規）

単位：千円

事 項	期 間	限 度 額
山村浄水場耐震詳細診断業務委託に係る契約	H22~H23	42,000
一般健康診断等委託に係る契約	H22~H23	938
財務会計システムに係る契約	H22~H27	1,784
施設設備保全業務委託等に係る契約	H22~H25	405

【収益的収支】

(収 入)

収入についての補正は、23,941千円の増額となり、その主な内容は以下のとおりです。

- 受託工事収益 5,041千円
ユーザー等からの受託工事の増
- 固定資産売却益 17,846千円
旧川越取水ポンプ所敷地の一部を売却したことによる増

(支 出)

支出についての補正は、316,961千円の減額となり、その主な内容は以下のとおりです。

- 原水及び浄水費 △259,220千円
水資源機構等が所管するダム等の水源施設に係る管理費負担金の減や動力費の減
- その他特別損失 △46,977千円
川越取水施設撤去工事の本年度施工箇所縮小及び施工年度の変更に伴う減

(純利益)

純利益については、収益的収入及び支出の補正により、当初の356,020千円から322,316千円の増となり、678,336千円となる見込みであります。

【資本的収支】

(収 入)

収入についての補正は、154,367千円の減額となり、その主な内容は以下のとおりです。

- 国庫補助金 △85,300千円
北伊勢工業用水道第二次改良費の減少に伴い、その財源としての減
- 他会計出資金 △54,966千円
平成22年度に実施した水資源機構割賦負担金繰上償還による支払利息の減少に伴い、その財源としての減

(支 出)

支出についての補正は、766,301千円の減額となり、その主な内容は以下のとおりです。

- 北伊勢工業用水道改良費 △248,408千円
関係機関の同調工事の遅れに伴う事業計画の変更による減
- 北伊勢工業用水道第二次改良費 △362,081千円
工法等の変更による減

3 電気事業【議案第28号関係】

(単位：千円)

		既決予算	12月補正	計	補正項目	
収益的 収支	収入	3,222,497	130,092	3,352,589	電力料(水力発電事業)	200,242
					電力料(RDF焼却・発電事業)	△ 44,578
					その他附帯事業収益	△ 25,597
					他会計補助金	25
	支出	3,716,007	△ 72,630	3,643,377	宮川第一水力発電費	△ 8,003
					宮川第二水力発電費	1,011
					宮川第三水力発電費	△ 40,161
					長水力発電費	△ 3,171
					三瀬谷水力発電費	9,289
					大杉貯水池費	△ 8,001
					青蓮寺水力発電費	△ 928
					大和谷水力発電費	12,544
					蓮水力発電費	△ 10,791
					青田水力発電費	△ 3,835
比奈知水力発電費	△ 903					
一般管理費	82					
RDF発電費	△ 29,104					
消費税及び地方消費税	9,341					
収益的収支差	△ 493,510	202,722	△ 290,788	収益的収支差は税込み		
純利益	△ 495,658	202,888	△ 292,770	純利益は税抜き		
	うち水力 △234,020	うち水力 241,884	うち水力 7,864			
	うちRDF △261,638	うちRDF △38,996	うちRDF △300,634			
資本的 収支	収入	209,325	-	209,325		
	支出	604,030	△3,466	600,564	宮川第三発電所改良費	△ 450
					大和谷発電所改良費	△ 4,106
					業務設備及び改良費	609
					青田発電所改良費	450
				比奈知発電所改良費	31	
資本的収支差	△ 394,705	3,466	△ 391,239	資本的収支差は税込み		

○債務負担行為の補正 追加(新規)

単位：千円

事 項	期 間	限 度 額
青蓮寺発電所水車発電機等内部点検手入工事に係る契約	H22～H23	68,000
比奈知発電所水車発電機等内部点検手入工事に係る契約	H22～H23	42,500
一般健康診断等委託に係る契約	H22～H23	1,059
行政事務用機器賃借に係る契約	H22～H27	2,650
財務会計システムに係る契約	H22～H27	1,570
施設設備保全業務委託等に係る契約	H22～H25	357

【収益的収支】

(収 入)

収入についての補正は、130,092千円の増額となり、その主な内容は以下のとおりです。

- 電力料（水力発電事業） 200,242千円
料金改定等に伴う増
- 電力料（RDF焼却・発電事業） △44,578千円
RDF搬入量の減少に伴う供給電力量の減

(支 出)

支出についての補正は、72,630千円の減額となり、その主な内容は以下のとおりです。

- 宮川第三水力発電費 △40,161千円
修繕費等の減少に伴う減
- 蓮水力発電費 △10,791千円
蓮ダム維持管理業務負担金等の減少に伴う減
- ORDF発電費 △29,104千円
委託料及び保険料等の減少に伴う減

(純損失)

純損失については、収益的収入及び支出の補正により、当初の495,658千円から202,888千円収支が改善し、292,770千円となる見込みであります。

なお、内訳は水力発電事業で7,864千円の黒字、RDF焼却・発電事業で300,634千円の赤字となる見込みであります。

【資本的収支】

(収 入)

収入についての補正はありません。

(支 出)

支出についての補正は、3,466千円の減額となり、その主な内容は以下のとおりです。

- 大和谷発電所改良費 △4,106千円
施工年度の変更による減

I 平成23年度当初予算要求状況について

1 施策別の予算要求状況

施策番号	施策名	(単位：千円)	(参考)	対前年度比
		23年度要求額	22年度予算額	
442	水資源の確保と効率的な総合利用	16,230,102	17,577,445	92.3%
443	エネルギー対策の推進	2,768,713	2,869,462	96.5%
その他	人件費・公債費等	17,775,721	20,434,100	87.0%
合	計	36,774,536	40,881,007	90.0%

2 主な事業

442 水資源の確保と効率的な総合利用

- ① 水道設備改良事業【基本事業名：44202 水の安全・安定供給】
 当初予算額：(22) 1,980,813千円 → (23) 1,832,633千円
 事業概要：水道用水の安定給水をはかるため、北中勢及び南勢志摩用水供給事業の既存設備の更新や改良を計画的に行います。
- ② 北伊勢工業用水道改良費【基本事業名：44202 水の安全・安定供給】
 当初予算額：(22) 2,679,582千円 → (23) 2,538,112千円
 事業概要：工業用水を安定的に供給できる施設機能を維持するため、施設の更新や改良を計画的に行います。
- ③ 工業用水道設備改良事業【基本事業名：44202 水の安全・安定供給】
 当初予算額：(22) 216,202千円 → (23) 290,571千円
 事業概要：工業用水の安定給水をはかるため、多度、中伊勢及び松阪工業用水道事業の既存設備の更新や改良を計画的に行います。

443 エネルギー対策の推進

- ① 水力発電事業【基本事業名：44302 電力・エネルギーの安定供給】
 当初予算額：(22) 1,784,471千円 → (23) 1,752,054千円
 事業概要：自然エネルギーである水力を利用した電力を安定的に供給するため、施設の適切な管理運営を行います。また、施設の老朽化対策や大規模地震対策を実施するとともに、水力発電事業の民間譲渡に向けた必要な設備改修を行います。
- ② 三重ごみ固形燃料(RDF)焼却・発電事業
 【基本事業名：44302 電力・エネルギーの安定供給】
 当初予算額：(22) 1,084,991千円 → (23) 1,016,659千円
 事業概要：ごみの持つ未利用エネルギーを有効利用するため、焼却・発電施設や貯蔵施設の適正な運用を行うとともに、RDFの品質管理を徹底するなど、引き続き安全対策に取り組み、安全で安定した運転を行います。

【参考】会計別予算要求状況

(単位：千円)

会計名	平成23年度 当初要求額 (A)	平成22年度 当初予算額 (B)	差引増減 (A)-(B)	対前年度比 (A)/(B)%
水道事業	20,120,793	23,589,852	△ 3,469,059	85.3%
工業用水道事業	12,608,408	12,971,118	△ 362,710	97.2%
電気事業	4,045,335	4,320,037	△ 274,702	93.6%
計	36,774,536	40,881,007	△ 4,106,471	90.0%

※金額は収益的支出と資本的支出の合計

Ⅱ 平成22年度中間決算報告について

1 水道事業の損益収支

○ 平成22年度中間期の損益は、比較損益計算書のとおり、営業収益及び営業外収益を合わせた収益合計は、50億4千万円余(対前年同期比83.5%)であり、営業費用、営業外費用及び特別損失を合わせた費用合計は、99億5千5百万円余(対前年同期比194.8%)です。

その結果、当年度中間期の純損失は、収益と費用の差引49億1千4百万円余(対前年同期比皆増)となりました。純損失の発生要因としましては、平成22年4月1日に伊賀水道用水供給事業を伊賀市水道事業へ一元化したため、特別損失が54億3千4百万円余発生したことによります。

なお、この特別損失を除いた当年度中間期の損益は5億2千万円余の純利益となり、前年度中間期の純利益9億2千3百万円余より4億円余減少しておりますが、これは料金改定に伴う給水収益の減少が主な要因となっております。

○ 前年同期比の利益増減要因

主な利益増加要因(対前年同期比)		主な利益減少要因(対前年同期比)	
●原水及び浄水費(委託料等)の減少	181百万円	●給水収益の減少	917百万円
●減価償却費の減少	198百万円	●特別損失の増加	5,409百万円
●支払利息の減少	182百万円		

○ 年間損益としては、45億8千4百万円余の赤字を見込んでいます。(特別損失を除いた年間損益は8億5千万円の黒字を見込んでいます。)[12月補正予算後]

(参考)供給実績(H22.10.5 県土整備企業常任委員会提出資料から。速報値は確定値に訂正)

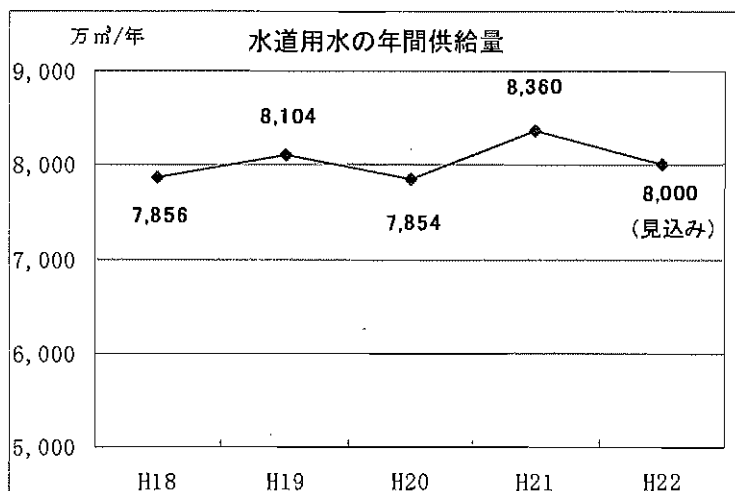
○ 平成22年度上半期の水道用水の供給量は4,022万 m^3 となっており、伊賀水道用水供給事業を伊賀市へ一元化したことなどから、昨年度比では6.3%の減となっております。

平成22年度年間供給量の見込みについては、例年(H21年度を除く)と同水準(約8,000万 m^3)と予測しています。

【平成21、22年度上半期の供給実績】

(単位:万 m^3)

事業	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
水道事業	21	628	666	757	692	724	826	4,293
	22	571	634	690	635	746	747	4,022
	対前年比	90.9%	95.2%	91.1%	91.8%	103.0%	90.4%	93.7%



比較損益計算書

平成22年4月 1日から
平成22年9月30日まで

水道事業会計

(単位:千円)

費 用				収 益			
科 目	前年同期 (21年4月1日～ 9月30日)	当 期	前年 同期比	科 目	前年同期 (21年4月1日～ 9月30日)	当 期	前年 同期比
営業費用	4,265,343	3,883,845	91.1	営業収益	5,850,588	4,933,907	84.3
原水及び浄水費	1,334,479	1,153,201	86.4	給水収益	5,848,897	4,931,928	84.3
配水費	303,497	313,722	103.4	その他営業収益	1,691	1,979	117.0
業務費	242,409	230,494	95.1				
総係費	320,513	303,272	94.6				
減価償却費	1,984,007	1,786,210	90.0				
資産減耗費	80,440	96,945	120.5				
営業外費用	820,026	636,864	77.7	営業外収益	183,943	106,992	58.2
支払利息	818,971	636,816	77.8	受取利息	33,013	19,144	58.0
受託工事費	997	-	皆減	他会計補助金	146,910	86,035	58.6
雑支出	59	48	81.1	受託工事収益	997	-	皆減
特別損失	26,140	5,434,797	20,791.1	雑収益	3,024	1,813	59.9
その他特別損失	26,140	5,434,797	20,791.1				
当期費用合計	5,111,510	9,955,506	194.8	当期収益合計	6,034,531	5,040,899	83.5
当期純利益	923,022	-	皆減	当期純損失	-	4,914,607	皆増
合 計	6,034,531	9,955,506	165.0	合 計	6,034,531	9,955,506	165.0

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

※伊賀水道用水供給事業一元化に伴う特別損失を除いた場合の純利益 520,190 千円

2 工業用水道事業の損益収支

○ 平成22年度中間期の損益は、比較損益計算書のとおり、営業収益、営業外収益及び特別利益を合わせた収益合計は、30億4千6百万円余(対前年同期比97.0%)であり、営業費用、営業外費用及び特別損失を合わせた費用合計は、27億2千6百万円余(対前年同期比90.7%)です。

その結果、当年度中間期の純利益は、収益と費用の差引3億2千万円余(対前年同期比235.1%)となり、前年度中間期の純利益1億3千6百万円余より、1億8千4百万円余増加しています。

○ 前年同期比の利益増減要因

主な利益増加要因(対前年同期比)		主な利益減少要因(対前年同期比)	
●特別利益(固定資産売却益)の増加	18百万円	●給水収益の減少	109百万円
●減価償却費の減少	43百万円	●受取利息の減少	20百万円
●特別損失(その他特別損失)の減少	187百万円		

○ 年間損益としては、6億7千8百万円余の黒字を見込んでいます。〔12月補正予算後〕

〈参考〉供給実績(H22.10.5 県土整備企業常任委員会提出資料から。速報値は確定値に訂正)

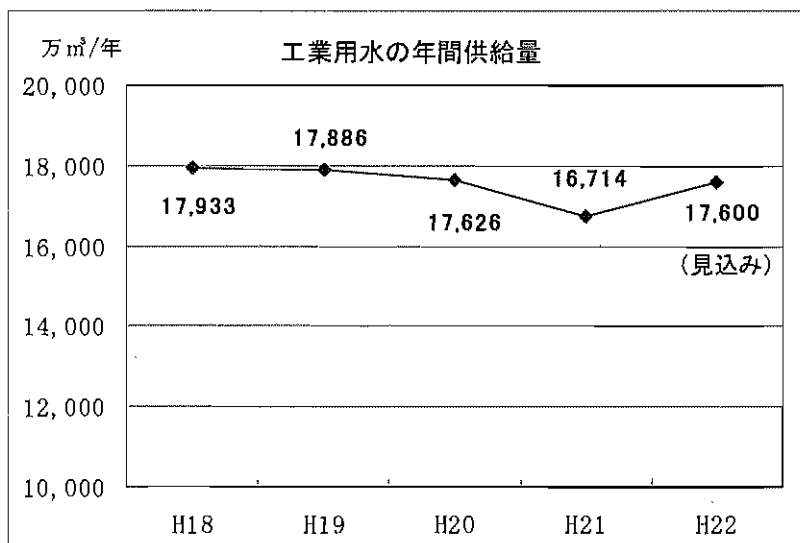
○ 平成22年度上半期の工業用水の供給量は、9,041万 m^3 となっており、厳しい経済情勢の影響を受け減少していた供給量も徐々に回復し、昨年度比では4.8%の増となっています。

平成22年度年間供給量の見込みについては、供給量が徐々に持ち直していることやユーザーとの新規契約もあり、昨年度を上回る水準(約1億7,600万 m^3)と予測しています。

【平成21、22年度上半期の供給実績】

(単位:万 m^3)

事業	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
工業用水道事業	21	1,373	1,455	1,341	1,455	1,517	1,482	8,623
	22	1,352	1,472	1,477	1,573	1,602	1,565	9,041
	対前年比	98.5%	101.2%	110.1%	108.1%	105.6%	105.6%	104.8%



比較損益計算書

平成22年4月 1日から
平成22年9月30日まで

工業用水道事業会計

(単位:千円)

費 用				収 益			
科 目	前年同期 (21年4月1日～ 9月30日)	当 期	前年 同期比	科 目	前年同期 (21年4月1日～ 9月30日)	当 期	前年 同期比
営業費用	2,460,815	2,394,046	97.3	営業収益	3,096,058	2,996,272	96.8
原水及び浄水費	860,470	832,507	96.8	給水収益	2,815,640	2,706,240	96.1
配水費	140,388	117,757	83.9	その他営業収益	280,418	290,032	103.4
業務費	151,777	166,885	110.0				
総係費	182,764	171,120	93.6				
減価償却費	1,110,042	1,066,859	96.1				
資産減耗費	15,375	38,919	253.1				
営業外費用	338,877	314,272	92.7	営業外収益	44,767	32,428	72.4
支払利息	338,108	308,531	91.3	受取利息	40,467	20,669	51.1
受託工事費	640	5,694	890.2	他会計補助金	-	2,588	皆増
雑支出	129	48	37.1	受託工事収益	640	5,694	890.2
				雑収益	3,660	3,478	95.0
特別損失	204,811	17,730	8.7	特別利益	-	17,846	皆増
その他特別損失	204,811	17,730	8.7	固定資産売却益	-	17,846	皆増
当期費用合計	3,004,503	2,726,048	90.7				
当期純利益	136,322	320,499	235.1				
合 計	3,140,825	3,046,546	97.0	合 計	3,140,825	3,046,546	97.0

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

3 電気事業の損益収支

○ 平成22年度中間期の損益は、比較損益計算書のとおり、営業収益、附帯事業収益及び営業外収益を合わせた収益合計は、16億1千4百万円余(対前年同期比110.2%)であり、営業費用、附帯事業費用及び営業外費用を合わせた費用合計は、16億8千6百万円余(対前年同期比98.3%)です。

その結果、当年度中間期の純損失は、収益と費用の差引7千2百万円余(対前年同期比28.8%)となり、前年度中間期の純損失2億5千万円余より、1億7千8百万円余減少しています。

◎ 電気事業 事業別中間決算損益内訳 (単位:千円)

	H21中間決算(A)	H22中間決算(B)	増減(B)-(A)
水力発電事業	32,003	85,185	53,181
RDF焼却・発電事業	△282,640	△157,352	125,288
計	△250,637	△72,167	178,470

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

○ 前年同期比の利益増減要因

主な利益増加要因(対前年同期比)		主な利益減少要因(対前年同期比)	
【水力】		【水力】	
●電力料収入の増加	132百万円	●受取利息の減少	5百万円
●支払利息の減少	15百万円	●三瀬谷水力発電費(修繕費等)の増加	40百万円
		●青田水力発電費(委託料等)の増加	23百万円
【RDF】		【RDF】	
●電力料収入の増加	7百万円	(特記事項なし)	
●その他附帯事業収益の増加	15百万円		
●RDF発電費(委託料等)の減少	103百万円		

○ 年間損益としては、2億9千2百万円余の赤字(水力発電事業:7百万円余の黒字、RDF焼却・発電事業:3億円余の赤字)を見込んでいます。[12月補正予算後]

比較損益計算書

平成22年4月 1日から
平成22年9月30日まで

電気事業会計

(単位:千円)

費 用				収 益			
科 目	前年同期 (21年4月1日 ~9月30日)	当 期	前年 同期比	科 目	前年同期 (21年4月1日 ~9月30日)	当 期	前年 同期比
営業費用	978,819	1,067,236	109.0	営業収益	1,111,238	1,242,679	111.8
宮川第一水力 発電電費	56,353	61,951	109.9	電力料	1,110,446	1,242,064	111.9
宮川第二水力 発電電費	93,486	100,355	107.3	その他営業収益	792	615	77.6
宮川第三水力 発電電費	68,069	72,346	106.3				
長水力発電費	40,241	41,926	104.2				
三瀬谷水力 発電電費	269,353	309,169	114.8				
大杉貯水池費	58,633	66,706	113.8				
青蓮寺水力 発電電費	13,410	10,736	80.1				
大和谷水力 発電電費	81,474	71,088	87.3				
蓮水力発電費	68,232	87,821	128.7				
青田水力発電費	64,657	87,252	134.9				
比奈知水力 発電電費	28,827	29,628	102.8				
一般管理費	136,083	128,258	94.2				
附帯事業費用	626,891	524,131	83.6	附帯事業収益	344,579	367,064	106.5
R D F 発電費	626,891	524,131	83.6	電力料	217,937	225,188	103.3
				その他附帯事業収益	126,642	141,875	112.0
営業外費用	110,077	95,287	86.6	営業外収益	9,333	4,744	50.8
支払利息	110,076	95,270	86.5	受取利息	9,243	4,282	46.3
雑支出	1	17	1,426.3	雑収益	90	462	511.6
当期費用合計	1,715,786	1,686,654	98.3	当期収益合計	1,465,150	1,614,487	110.2
				当期純損失	250,637	72,167	28.8
合 計	1,715,786	1,686,654	98.3	合 計	1,715,786	1,686,654	98.3

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

〈参考〉供給実績(H22.10.5 県土整備企業常任委員会提出資料から)

① 水力発電

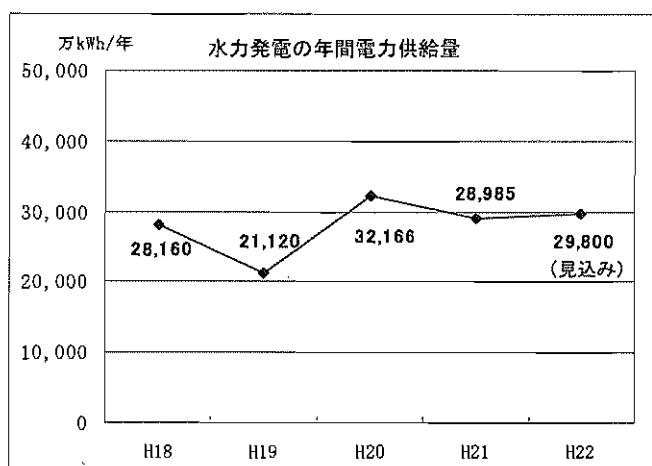
○ 平成22年度上半期の水力発電による電力供給量は8～9月は降雨量が少なかったものの、4～7月にかけて定期的な降雨があったため、約1億8,343万kWhとなりました。これは、ほぼ平成22年度の上半期の目標電力量どおりですが、昨年度比では20.2%の増となっています。

平成22年度年間供給量の見込みについては、平年並みの水準(約2億9,600万kWh)と予測しています。

【平成21、22年度上半期の供給実績】

(単位:万kWh)

事業	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
電気事業 (水力)	21	1,915	3,061	2,245	3,038	3,789	1,207	15,255
	22	3,206	3,831	3,426	3,747	2,833	1,301	18,343
	対前年比	167.4%	125.2%	152.6%	123.3%	74.8%	107.8%	120.2%



② RDF焼却・発電

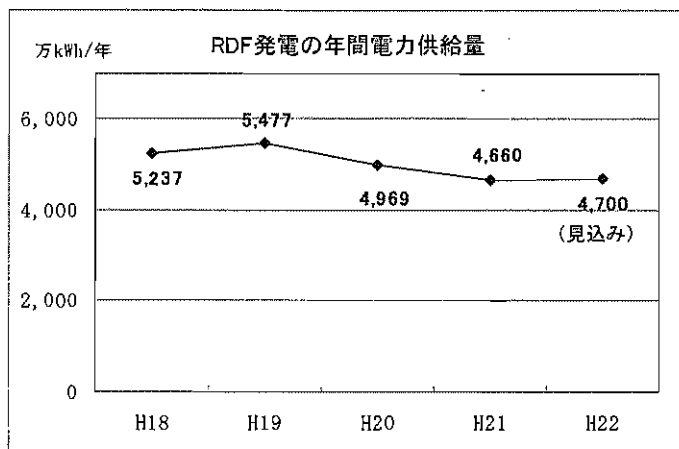
○ 平成22年度上半期のRDF焼却・発電による電力供給量は、市町からのRDF搬入量が微増したことなどから、昨年度比2.7%増の2,416万kWhとなっています。

平成22年度年間供給量の見込みについては、年間のRDF搬入量をほぼ昨年度並みと見込み、昨年度と同様の水準(約4,700万kWh)と予測しています。

【平成21、22年度上半期の供給実績】

(単位:万kWh)

事業	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
電気事業 (RDF)	21	492	297	536	301	390	337	2,352
	22	443	389	466	360	434	324	2,416
	対前年比	90.0%	131.0%	86.9%	119.6%	111.3%	96.1%	102.7%



Ⅲ 北中勢水道(北勢長良川水系)の水道料金見直しについて

1 経過状況

北中勢水道用水供給事業(北勢長良川水系)については、計画給水量18,000m³/日のうち現在13,400m³/日の給水を行っています。平成23年4月1日から全部給水(18,000m³/日)を開始するに伴い、新たに供用を開始する施設があることなどから水道料金の見直しが必要となります。このため下記のとおり新料金(案)を受水市町に提示し、協議を行いました。

【新料金(案)】

事業		料金種別等		現行	新料金(案)	差額(円)
北中勢水道	北勢	長良川水系 (亀山市の区域以外 の区域に係るもの)	基本料金 (円/m ³ ・月)	1,400	2,560	+1,160
			使用料金 (円/m ³)	39	39	0
			超過料金 (円/m ³)	180	180	0
	中勢	長良川水系 (亀山市の区域に係 るもの)	基本料金 (円/m ³ ・月)	3,130	2,750	△ 380
			使用料金 (円/m ³)	39	39	0
			超過料金 (円/m ³)	180	180	0

2 亀山市受水地点の変更等に伴う増額費用の負担

北中勢水道用水供給事業(北勢長良川水系)では、平成18年度に、計画給水量の見直し(47,600m³/日→18,000m³/日)を行っており、その際、亀山市では受水量を増量(2,600m³/日→7,400m³/日)するとともに受水地点を変更(同市太森地内→白木地内)しました。この受水地点の変更等に伴う送水管の延伸及び増径に係る増額費用の負担について、受水市町と協議を行ってきたところ、次のとおり協議が整いました。

【合意事項】

- ・ 送水管の延伸に係る増額費用^{※1}は、亀山市が負担する。
- ・ 送水管の増径に係る増額費用^{※2}は、北勢長良川系全受水市町が負担する。

※1 送水管の延伸:内径500mm L=5.7km、増額費用:7.3億円

※2 送水管(11.7km)の増径:内径200・250mm→内径500mm、増額費用:5.2億円

3 基本料金と使用料金について

①二部料金制

平成23年から26年の4ヵ年の総括原価に基づき基本料金と使用料金の二部料金制としています。

基本料金:施設の建設に要した費用に基づく料金

使用料金:維持管理に要する費用に基づく料金

②使用料金の平準化

使用料金の算定基礎となるランニングコストは、水系毎に大きく乖離するものではないことから、使用料金は県内同一水準が望ましく、現在、全水系の使用料金を39円/m³としております。

4 料金改定のスケジュール

平成23年2月 平成23年第1回定例会2月会議に水道供給条例改正案を提出
平成23年4月1日 新料金の適用

【参考1】他事業の料金

事業		料金種別等	基本料金 (円/m ³ ・月)	使用料金 (円/m ³)	超過料金 (円/m ³)
北中勢水道	北勢	木曾川用水系	670	39	180
		三重用水系	2,930	39	180
	中勢	雲出川水系 長良川水系	1,000	39	180
南勢志摩水道	志摩系 南勢系	1,070	39	180	

【参考2】水道料金の推移

(単位：円)

水系	北中勢水道										南勢志摩水道					
	木曾川用水系		三重用水系		長良川水系 (亀山市の区域以外)		長良川水系 (亀山市の区域)		雲出川水系		長良川水系		志摩系		南勢系	
年度	基本	使用	基本	使用	基本	使用	基本	使用	基本	使用	基本	使用	基本	使用	基本	使用
7	1,020	39	3,300	75	-	-	-	-	380	39	800	39	1,520	39	1,460	60
8	↓	↓	↓	↓	-	-	-	-	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
9	↓	↓	↓	↓	-	-	-	-	↓	↓	↓	↓	1,850	↓	↓	↓
10	↓	↓	↓	↓	-	-	-	-	↓	↓	2,060	60	↓	↓	↓	↓
11	↓	↓	↓	↓	-	-	-	-	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
12	↓	↓	↓	↓	-	-	-	-	↓	↓	↓	↓	1,740	↓	1,320	↓
13	↓	↓	↓	↓	1,400	39	-	-	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
14	↓	↓	↓	↓	↓	↓	-	-	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
15	↓	↓	↓	↓	↓	↓	-	-	↓	↓	↓	↓	1,320	60	↓	↓
16	↓	↓	↓	↓	↓	↓	-	-	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
17	680	↓	↓	65	↓	↓	-	-	470	↓	2,030	39	1,290	39	1,290	39
18	↓	↓	↓	↓	↓	↓	-	-	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
19	↓	↓	↓	↓	↓	↓	-	-	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
20	↓	↓	↓	↓	↓	↓	-	-	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
21	↓	↓	↓	↓	↓	↓	3,130	39	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
22	670	↓	2,930	39	↓	↓	↓	↓	1,000	↓	1,000	↓	1,070	↓	1,070	↓

※ 基本料金は、一日最大使用水量1m³あたりの月額
使用料金は、使用水量1m³あたりの金額

【参考3】水道料金の算定方法

(1) 基本料金（資本費：施設整備等に要した費用）

$$\text{基本料金} = \frac{\text{支払利息} + \text{減価償却費} + \text{資本造成費}}{\text{基本水量（一日最大給水量）} \times 12 \text{月} \times \text{料金算定期間}}$$

（円/m³・月）

- (注) ア 支払利息：施設の建設・改良等に要する資金に充てるため借入れた企業債（政府債、公庫債、縁故債）の利息
 イ 減価償却費：起債等の元金償還に充当するもので、当庁においては定額法を採用している。
 ウ 資本造成費：減価償却不足額（元金償還金 - 減価償却費）

(2) 使用料金（営業費用：維持管理費等）

$$\text{使用料金} = \frac{\text{維持管理費}}{\text{算定期間の全使用水量}}$$

（円/m³）

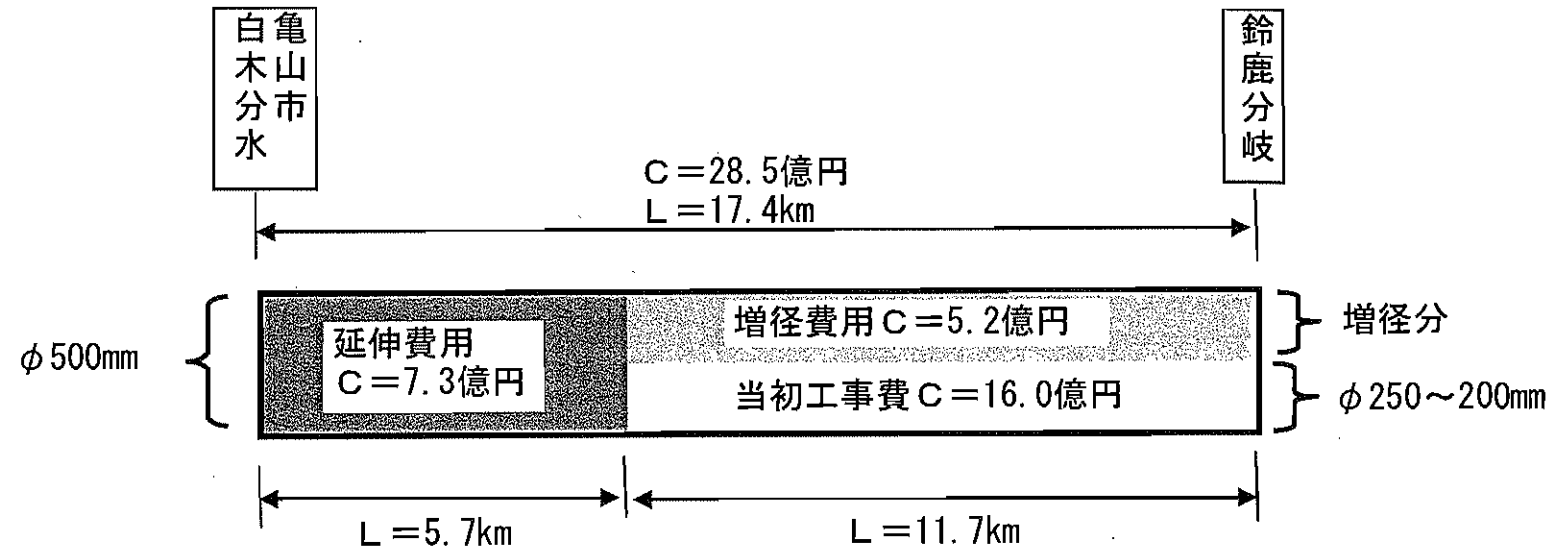
- (注) ア 使用水量：各市町村の給水需要計画を基に算定
 イ 維持管理費：人件費、動力費、薬品費、修繕費、委託費、負担金、市町村交付金、物件費（前記以外の経費で旅費、賃金、備用品費、燃料費、光熱水費、印刷製本費、通信運搬費、その他）

【参考4】北勢長良川水系の給水対象及び一日最大給水量（単位：m³/日）

給水対象	一部給水 (H13.4～)	一部給水 (H21.7～)	全部給水 (H23.4～)
桑名市	2,000	2,000	1,100
木曾岬町	1,700	1,700	2,000
川越町	1,000	1,000	1,400
朝日町	1,000	1,000	1,000
四日市市	700	700	2,200
鈴鹿市			2,200
菰野町			700
龜山市		7,000	7,400
	6,400	13,400	18,000

北中勢水道用水供給事業(北勢長良川水系) 管路平面図

亀山市向け送水管に係る費用内訳



内部川

鈴鹿分水

鈴鹿分岐~亀山分水

鈴鹿分岐から亀山白木分水まで

延長 L=17.4km
管径 φ=500mm

鈴鹿分岐から亀山太森分水まで

延長 L=11.7km
管径 φ=250~200mm

(変更)
亀山白木分水

(当初)
亀山太森分水